

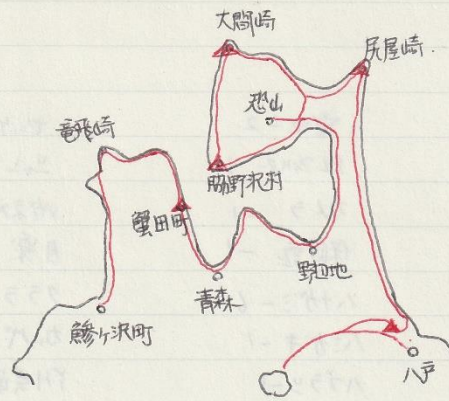
# 下北・津軽半島

1986年 8月 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16日

5泊8日

費用 ¥60,743-

走行距離 790 km



8月 9日 前橋 (電) 糠 (電) 八戸

8月 10日 八戸 ~ 十和田湖 ~ 向山 (川妻グリーンYH)

8月 11日 向山 ~ 六ヶ所村 ~ 尻屋崎 (尻屋崎YH)

8月 12日 尻屋崎 ~ 大間崎 (大間崎YH)

8月 13日 大間崎 ~ 脇野沢 (脇野沢YH)

8月 14日 脇野沢 ~ 青森市 ~ 蟹田町 (蟹田馬車野路)

8月 15日 蟹田町 ~ 竜飛崎 ~ 鱒ヶ沢町 ~ 青森 (電)

8月 16日 青森 (電) 大宮 (電) 前橋

\*\*\*\*\*  
\*\* チャリンコ旅日記 No.10 \*\*  
\*\* Resistance Of My Mind 19910915 \*\*  
\*\*\*\*\*

【 1986年 8/9日から16日 下北・津軽半島 790Km 】  
( 八戸市 から 鱈ヶ沢町 )

【8月9日(土)】 曇り 走行距離 0Km  
(電車)新前橋駅 → 上野駅 → 八戸駅 走行時間 0分

17:53 自宅 出る  
18:13 新前橋駅 着  
19:06 出る 特急谷川10号 ¥12460-  
21:14 上野駅 出る 急行八甲田 食料 ¥720-

下北半島。日本一周を始めた最初の年に行くはずだった。前の会社、(株)日本製線にいたころで、残念ながら休日出勤のため夢は叶えられなかった。その9月転職して隣の会社(株)ナカヨ通信機に入社し、翌年5月YHの予約をしたが休日出勤で行く事ができなかった。そして、その夏には能登半島で交通事故。昨年の夏には、急にハワイでの自転車レースの参加が決まり、下北半島を諦めた。

四年目の夏。すでに行き場所は決まっていた。今年こそは、本州の最果ての地下北を攻める。

17時に仕事が終わると他人に残業をさせて、俺は急いで帰宅した。18時には、新前橋駅に行かなくてはならない。旅の仕度をしていて気ばかり焦ってしまって、なかなか準備が出来ない。旅立ちの不安が大きく、いらいらしている。結局、家を出たのは、18時近かった。

駅に着いてから、馴染みの場所で輪行を始める。男の子が近づいてきて、俺のする事を眺めている。この子が大きくなったとき、俺の様な事をするだろうか。せめて、彼の遠い日の記憶の中に、自転車を分解している俺の姿が生き続けられれば素晴らしい。作業手袋を忘れて靴下を手にはめて作業をしている姿は、滑稽だろう。わずか20分程で作業が終わり、駅に入る。電車にもなんとか間に合い、特急谷川で上野駅に向かう。途中、電車の右の窓から、何処の町だか知らないが、大きな花火や小さな花火が、光ったり消えたりしているのが見えた。すでに気持ちは落ち着き、心は下北へ飛んでいる。

上野駅に着いて、急行八甲田の始発ホームへの階段を降り始めて、人の多さに驚かされた。すでに座席はいっぱいで、自転車だけ車内に入れて夜の為の食料を買いに行く。戻ってきたら、自転車を乗せた車両には乗れず、しかたなく別の車両に乗り込んだ。

21時14分、下北へ向けて急行八甲田は動きだした。

【8月10日(日)】 快晴

走行距離 130Km

八戸駅 → 十和田湖 → 向山

走行時間 7時間14分

7:36	八戸駅 着	川、ジュース	13:10	十和田湖 出る	
8:42	出る	¥310-	58	焼山 休み	ジュース ¥100-
9:22	藤が森		14:00	出る	
10:13	十和田市内	トマトジュース	55	十和田市	
20	出る	¥100-	15:42	向山駅	アイス ¥50-
11:00	百目木	トマトジュース	47	出る	
05	出る	¥100-	56	カワヨグリーンYH 着	
12:11	十和田湖(子ノ口) 着				ジュース ¥100-
	昼食	¥820-			YH ¥2900-

眠れぬ夜のもうろうとした意識も、天候の不安も、八戸の青空を見たら吹き飛んでしまった。ホームに降り立ち改札口を出ると、4年前の記憶が蘇ってきた。宮古から八戸まで走り、夕方3時に到着してしまい夜の9時まで暇をつぶしていたこと。眠つぶしに入った食堂のおばさんが、群馬県出身の人で高崎の観音様を懐かしがっていたこと。改札口、売店、待合室、確かに見覚えのある八戸駅。

青森の夏。今日は、十和田湖を見て憧れのカワヨグリーンYHに泊まる予定。旅行をしていない季節、よく地図を見たりガイドブックを見たりして、叶わぬ計画を夢見ている。カワヨグリーンYHは、三本木原台地の牧場の中にある。夜行の疲れを忘れて、十和田湖、奥入瀬溪流を走ってきた私は、向山駅から東の丘の上に見えるYHを見上げて、その広さに感激していた。あとあそこまで走れば、今日は終わり。旅の初日には、もう何日か走ってきている様な気がする。

夕方、YHに着いてから、夕食前にYHの周りを散歩した。裏手には広大な畑が広がっている。人参だか大根の平行な柵がずっと向こうで集中している。まるで遠近法の世界そのもの。夕食の後、ミーティングを楽しみにしていたが、当の本人が翌朝までぐっすり眠ってしまった。

【8月11日(月)】 晴

走行距離 129Km

向山 → 六ヶ所村 → 尻屋

走行時間 7時間57分

5:30	起床 牧場を散歩	11:29	小田野沢 かつソ ¥450-
7:45	YH 出る	58	出る
8:01	藤ガ森	12:01	休み 71入 ¥50-
54	塩釜 休み トマトジュース	05	出る
58	出る ¥100-	13:21	尻屋・尻労 分岐
9:52	六ヶ所村 休み	14:04	尻屋崎 ジュース ¥100-
10:00	出る 栄養剤 ¥380-	15:42	尻屋崎YH 着 ¥2800-
49	物見崎		

三沢市の北部に広がる、小川原湖の東側を通るR338を走り北上。天ヶ森で、小川原湖から流れ出る高瀬川を渡り、六ヶ所村までいくつかの沼を通過した。この辺はまだ家が多いが、六ヶ所村を過ぎるとめっきり少なくなり、集落と原野がはっきりしてきた。その辺になると、上空から戦闘機の爆音が降ってくるようになった。上空を何回も何回も戦闘機が飛び交っている。そして海岸のほうからは、大砲の音が響いてくる。一直線の道、原野の中をまっすぐに上り下りする道。まるでフリーウェイの様だ。小田野沢からR338を下りて尻屋への近道に行く。ところが、この道は防衛庁の下北試験場の脇を通っていて、時折、大砲の音がする。そして、下田代からはダートになる。道幅は広いが、一面のバラス道。道端の草木は、真っ白に砂ほこりを被っている。車がたまに通ると砂ほこりが立って、前が見えなくなる。

津軽海峡沿いの海岸通りに出ると舗装となり、走り易くなる。尻屋崎の入り口には、ゲートがあり、白馬が一頭、草をはんでいた。

尻屋崎には燈台があり、その脇に、本州の最涯地尻屋崎と記された碑が立っている。そして、沢山の牛。北は津軽海峡、東は太平洋。

「白馬は 悲しからずや 空の青 海の青にも そまらず漂う」

と、若山牧水がこの地で、うたっている。

尻屋崎は、厳冬のさなかでも馬が放牧されている“寒立馬”で有名だが、夏の今は、“夏立牛”なのか沢山の茶色の牛が放牧されていた。そして、人も沢山放牧されていた？

【8月12日(火)】 曇り/晴

尻屋 → 恐山 → 大間町

走行距離 114Km

走行時間 7時間30分

4:20	起床 独りで裏山へ登る	10:54	恐山 出る
40	裏山山頂 にわか雨	11:28	むつ市内
5:05	YHへ戻る	12:11	大畑町 冷やし中華 ¥500-
7:30	YH 出る 雨上がり	34	出る
47	休み ハンズ&ア	13:11	下風呂温泉 晴
52	出る ¥280-	42	蛇浦 休み ズェス7イ
8:10	消防署 道を聞く	54	出る ¥150-
18	石持納屋入り口	14:13	大間崎 本州最北端の地
56	むつ関根	27	出る 7イ ¥50-
9:14	むつ市内	15:00	大間崎YH 着 YH ¥2950-
10:04	恐山 着 入山 ¥50-		食料 ¥385-
	7イ ¥100		

尻屋崎YHの裏手に30分程で登れる小さな山がある。朝4時過ぎに起きて裏山に登る。辺りはまだ薄暗く、手に棒を持って森の中へ進んでいく。不安と恐ろしさに耐えて山頂を目指す自分に、「何故こんな事をしているんだろう。」と思いながらも、その答を知るのが怖いから(俺、バカやねん)只ひたすら登っていく。山頂に着いたかと思うと恐怖が待っていた。遠く海の彼方には漁船の明かりが揺らめいている。尻屋漁港から桑畑山の方へ視線をむけたら、私の目の高さで白い雲の塊が、こちらに向かってきた。同時に、私がおここに来た事をとがめるかのように、息が出来ないほどの強風と雷鳴が襲ってきた。白い雲はすぐに消え去り、雨が降りだした。私は、山頂の窪地の板切れの下で雨宿りをしていたが、恐くて、雷鳴に追われ、雨に濡れながら山を下った。まだ、朝5時過ぎ。YHの仲間はまだ寝ている。

今日は半日、天気がぐずついていた。計画では来る予定ではなかったが、せっかく下北まで来たのだからと思い、恐山に自転車で踏み込んだ。むつ市内から50分で恐山に着く。テレビで紹介された恐山はとても怖いところの様だったが、実際に行ってみるとそれほど恐くはなかった。でも、夜、そこへ行くのは絶対に嫌だと思える様な異様な場所、恐山。

【8月13日(水)】 快晴

走行距離 89Km

大間町 → 牛滝 → 脇野沢村

走行時間 7時間33分

7:40	大間崎YH 出る	12:18	休み 昼食
8:10	佐井村 ジュース ¥300-	33	出る
15	出る	39	流汗台 着
9:18	福浦 休み 牛乳 ¥100-	13:10	源藤城
25	出る	18	滝山 休み ジュース ¥100-
49	仏が浦展望台	27	出る
53	出る	36	脇野沢村
58	仏が浦海岸 休み	14:00	九艘泊 ジュース ¥100-
10:51	出る ジュース ¥130-	45	出る
11:17	牛滝	15:13	脇野沢YH 着 ¥3100-
39	野平 交差点		食料 ¥848-
43	出る		

下北半島の津軽半島と向き合う面は、交通の難所である。冬場は道路閉鎖、夏場でもあまり車は通らない様な、石ころだらけの道。佐井村から始まるこの道を「海峡ライン」と言う。脇野沢村までの50Km程の道の殆どがダート。それに、売店、自動販売機もたいしてない。この道の途中に唯一綺麗なところがある。それは仏が浦。海岸に細長い岩が立ち並んでいて、それが石仏の様なところから、仏が浦と言う。仏が浦で最後の水を補給して、苦しさを増す海峡ラインを走る。海岸に沿って走っていた道が急に山の中に向い、じりじりと登っていく。そして、道幅が広がりまっすぐな道の途中に標識が見える。野平の交差点だ。まるで死んだ村の様に、交差点の先、まっすぐ続く石ころだらけの道の両わきに古びた家が点々としている。快晴の暑い日差しの中、婦人が一人、畑を耕していた。車が通ると、ほこりが凄い。道はさらに山道を進み、苦しさが増してくる。しかし、決して下りて歩かない。冷たい風が心を和ませてくれる。苦しくて苦しくてお昼にした。海峡ラインには、セブンイレブンも自動販売機もありません。バックの中のパン一つとジュース一本が私の命綱。しばらく休んで、そこからいくらも行かない所に、峠の流汗台があった。苦しみの汗も爽やかな風で誇りに変わって行く。大きな石に刻まれた流汗台。下北の難所を無事通過することが出来た。

【8月14日(木)】曇り／にわか雨

走行距離 200Km

脇野沢村 → むつ市 → 青森市 → 蟹田町 走行時間 12時間38分

8:25	脇野沢YH 出る	15:44	夏泊崎 炊飯、アイス ¥500-
9:04	休み メガネ拭く	16:04	出る
07	出る	42	R4交差点 ジェス ¥100-
10:16	むつ市 みやげ ¥13350-	47	出る
11:03	出る ジェス ¥100-	17:12	前輪パンク 降雨 アイス ¥100-
12:38	休み 冷やし中華 ¥650-	46	出る 修理 雨止む
13:23	出る 雨ポツポツ	18:26	青森駅 着 夕食 ¥980-
14:06	野辺地 降雨	19:40	出る
25	休み ジェス ¥100-	21:03	蟹田駅 着 ジェス ¥200-
32	出る		
55	夏泊り入り口		

脇野沢YHは、学生、一般のサルの研究者で賑わっていた。このYHのペアレント高橋金三さんは、この地にサルが現れて以来サルの行動を研究してきた。ここから5Km程走った所に行き止まりの部落、九艘泊がある。この地は、人知れず細々と漁業で生計を立てていたが、1960年の秋、数頭の野猿が姿を現したのをきっかけに、世界の野性サル生息の北限地として、一目脚光を浴びるようになった。

当時は、サルの出現で狭い痩せた土地に出来た貴重な農作物をサルに奪われる様になり、人とサルの闘いが始まった。村人が、冬の食料として土の中に保存しておいた野菜を掘り出して食べるサル。軒先に吊るしておいた魚を奪って行くサル。追っても追っても、村人の目を盗んでやってくる。敵対する村人とサル。そんな中でサルの行動をじっと見守って来た人がいた。雨の日も、雪の日も山に通って、じっとサルの動きを観察していた。次第に協力者も増え、大間町から脇野沢村の間にいくつかのサルのグループが確認され、その一部は、文化庁の許可のもと捕獲され餌付けされている……。

雨の朝、早くから廊下でサルの資料を読みふける、サルの社会構造と人間社会との似つかわしさを認識し、会社での自分の立場を考えさせられた。

YHを出る頃には雨も上がり、大勢の仲間に見送られてYHを出発する。陸奥湾沿いにむつ市まで走り、そこから、下北半島の鎌首の部分野辺地に向かう。一日中、雨の降りそうな天気。野辺地からオートキャンプで賑わう夏泊半島を廻って、青森駅へ夕方18時26分に到着。ここで、今

日は泊まる予定なので、自転車を止めて街中を歩いていたら見覚えのある女性に行き逢った。今朝、脇野沢YHで別れたばかりなのに、こんな所で逢うなんて……。ちょっと話をして別れた。青森駅は人が多くて、とてもここで一晩泊まる気にはなれない。

19時40分、青森駅を出て津軽半島に向かう。線路沿いに走ればどこかに駅があるだろう。そしたら、そこで泊まろう。そうに思いながら、暗い夜道を不安に駆られながら走った。21時、やっと、駅に着いた。そこは蟹田駅。誰もいない駅の待合い室。しばらくして出てきた駅員さんに、「ここに泊まるのなら、ホームの待合い室にしてくれ。」と、言われて喜んでホームの待合い室で寝る。堅いベンチに横になって、タオルを枕に、不安から解放されて行った。初めての野宿。寝る場所があるって素晴らしい。

【8月15日(金)】曇り／はれ／にわか雨

走行距離 128Km

(自転車)蟹田駅 → 竜飛崎 → 鱒ヶ沢町

走行時間 7時間53分

(電車) 鱒ヶ沢駅 → 弘前 → 青森 → 前橋駅

5:20	蟹田駅 出る	10:30	休み ラーメン ¥450-
45	休み ガソリン ¥300-	37	出る
57	出る ¥300-	12:18	亀ヶ岡 休み にわか雨
6:55	鑄釜崎	25	出る ガソリン ¥180-
7:03	出る	13:13	鱒ヶ沢駅
8:09	竜飛崎 曇り	17	玉の湯旅館 入浴料 250-
37	出る ガソリン ¥300-	14:19	出る 自転車分解
53	ダート 始まる	————— 電車 —————	
9:17	終わる	14:49	鱒ヶ沢駅 出る 電車 ¥10800-
19	展望台	17:30	青森駅 着 ガソリン ¥100-
30	出る	18:12	出る
10:13	小泊		急行八甲田52号 食料 ¥1500-

5時20分、蟹田駅を出る。平館海峡には、灰色の雲が重く垂れ黒い波の向こう側に下北半島の西岸が、ぼんやりと見えている。脇野沢、北限のサル、もう一度行ってみたい。

津軽海峡、日本海を望む竜飛崎は、急な坂道の上にあった。ここには白亜の燈台と軍事的なレーダーサイトがある。天気が良ければ、北海道が見えるのだろうけど残念ながら見えなかった。

竜飛崎から日本海側を南下する。目の前には裾野を雄大に広げた岩木山がそびえている。しかし、



黒雲に半分以上隠されている。もうすぐ夕立になるだろう。鯨ヶ沢町に着いたとき、もの凄い夕立になった。私は、銭湯を探して、そこに逃げ込む。

夕立はすぐに上がり、夕陽が射してくる。私は風呂で、旅の疲れと垢を落として、鯨ヶ沢駅から帰郷の途についた。

毎日、仕事が終わって帰る家。どんなに遠くへ行っても旅先から帰る家。不思議なもので、何だかんだ言っても家に帰ってくる。



阿修羅の流水 0810. 奥入瀬溪流



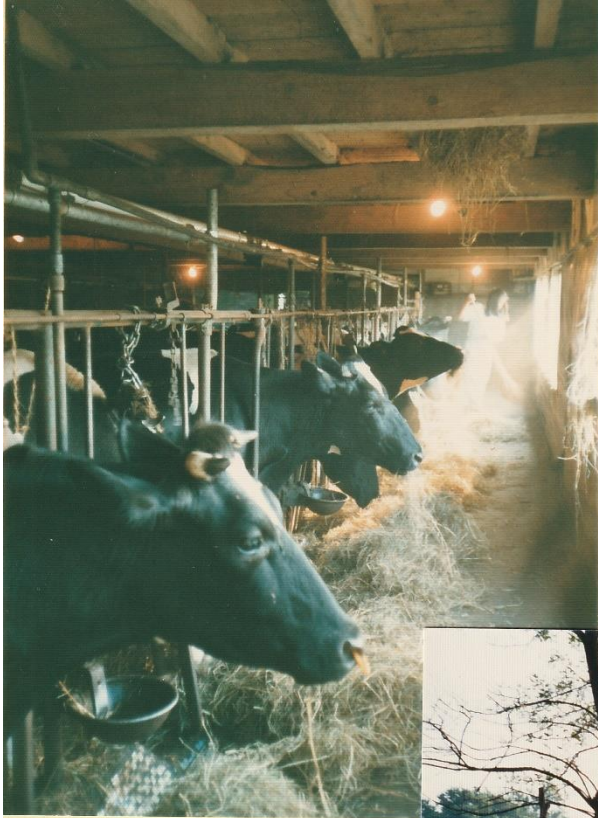
白糸の滝



鉦子大滝



阿修羅の流水



0811

# カワヨグリーン牧場

1995年夏 最愛の人 真由美  
と、河地を訪れ、一夜をあけ  
また、牛舎の仕事を手伝った



0811 尻屋崎

白馬は 悲しからずや  
空の青 海の青にも  
そまづ 漂う

— 若山 牧水 —



0812 マスル・北壁



0812 早朝の尻屋漁港 (Y山裏山より)



0812 恐山



0813 仙ヶ浦



0812 火間崎

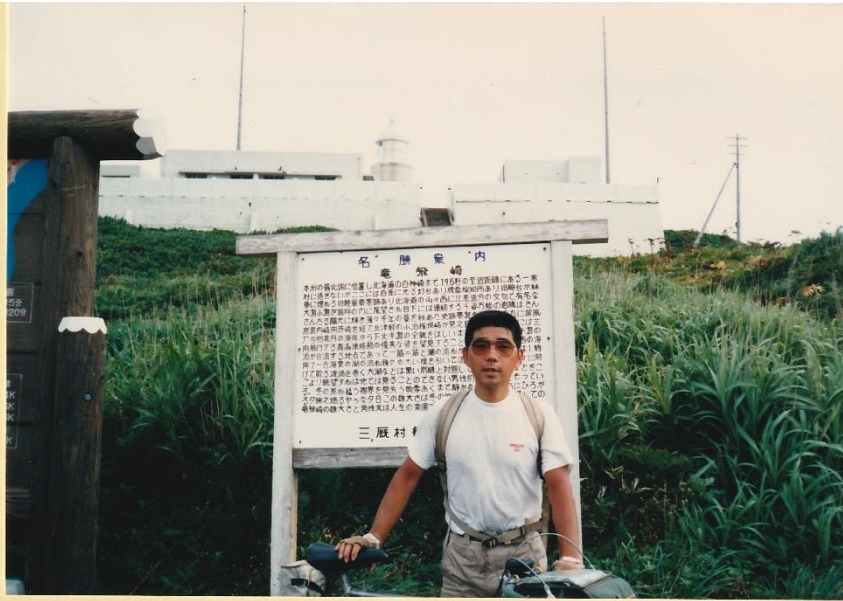


0813  
海峡ライル  
牛滝



0813  
海峡ライル  
流汗台

0815  
竜飛崎



0815  
眺台





北海島のニホンカモシカ  
昭野沢2-2.木下テ儿



北限の野猿  
昭野沢2-2.木下テ儿





0815 津軽刊 脇野沢方面を望む.



2限の早希猿  
脇野沢1-2木刊